

第622回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2020年5月度 ——

- ◇ 開催日
2020年5月19日(火)
- ◇ 議題
＜テレビ番組＞
テレメンタリー2020
「一命をとりとめた後に～“見えない障害”と向き合う～」
放送日：2月4日（火）25時55分～26時25分
- ◇ その他
「2019年度下期の番組種別の公表報告」

今回は「新型コロナウイルス」感染拡大防止の観点から、
委員長以外の委員はテレビ会議システムを利用したリモート参加とした

九州朝日放送株式会社

第622回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2020年5月19日(火)午後3時30分～4時45分(4月度は休会)

2. 開催場所 九州朝日放送 本社役員会議室
及び「新型コロナウイルス」感染拡大防止の観点から、
委員長以外の委員はテレビ会議システムを利用したリモート参加

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 5名

委員長	池田 勝
副委員長	戸田 康一郎
委員	守田 有理子
委員	赤木 由美
委員	山崎 靖

欠席委員数 3名(レポート代読)

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和 氣 靖
常務取締役	笹 栗 哲 朗
取締役	森 君 夫
取締役 報道情報局長	佐 伯 拓 史
総合編成局長兼ラジオ局長	坂 井 剛
報道情報局 報道情報センター長	川 崎 浩 司
報道情報局 報道情報センター (プロデューサー)	吉 住 啓 一
報道情報局 報道情報センター (ディレクター)	花 牟 礼 哲 史
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	平 田 晋
番組審議会事務局 (視聴者・広報室)	松 永 俊 郎

4. 議 題

(1) テレビ番組

テレメンタリー2020「一命をとりとめた後に～“見えない障害”と向き合う～」
<放送日>2月4日(火)25時55分～26時25分

- (2) 2019年度下期の番組種別の公表報告
- (3) 5月・6月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (4) 3月・4月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (5) その他

5. 議事の概要

委員の意見(概要)

委員からは、

- 高次脳機能障害をはじめとする障害や病気で会社や周りの人に理解してもらえず、悩んでいるという人はとても多いと思う。今回のような番組を通し、視聴者が知らないことを発信していくことは放送局の大切な仕事だと思った。
- 誰もが障害をもつリスクがあり、仮に障害を抱えることになっても誰もが安心して暮らせる社会になって欲しいとの観点から、大変価値ある番組だと思った。
- ドライブレコーダーの映像が非常にリアルで、視聴者を引き込むには効果的だったと思う。偶然撮影された事故前の深町さんの元気な姿やマラソン大会で完走する映像は一気通貫で撮影されており、とてもよくできた構成だと思った。
- テレビカメラの前で涙する深町さんの様子からは、自分が自分でなくなることへの恐怖や悲しみがありありと伝わった。番組スタッフと深町さんとの間に深い信頼関係が生まれていたのだろうと感じた。番組スタッフが親身に寄り添ってきたのだろうことが容易に推測ができたし、番組スタッフの熱意を感じた。
- 深町さんと同じく高次脳機能障害を抱える瀧本さんの「必要とされていると感じる」「生きてる感」との言葉からは、人は(自分が周囲から)必要とされていると感じることで前を向いて歩むことができるのだなと改めて感じた。胸に刺さる言葉だった。

などの評価を頂きました。

また、気になる点や望むこととして、

- 自らの姿をテレビで伝えることには抵抗や葛藤もあったと思う。どうして取材をすることができたのかなども併せて伝えれば、見る側の更なる納得感や安心感につながったのではないか。
- 治療やリハビリ、あるいは社会や家族が障害を抱える人とどう向き合うべきか、もう少し詳しく知りたいと感じた。外見で判別しづらく、接し方が難しいだけに、自分たちに何ができるのか、もう少し説明がほしかった。

- 「ヘルプマーク」についての説明がなく残念だった。マークの意味を知らない視聴者も多いはず。社会の理解を高めるためにも、もう少し解説が欲しかった。また、瀧本さんのケースを紹介する時間が短かったように感じた。もう少し深掘りをしてほしかった。
- 放送時間が深夜でもったいない。30分と言う放送時間も、高次脳機能障害を抱える2人の紹介が少し端折られた感じに見えた。1時間番組にするとか、別の時間帯でより多くの人に見て欲しいと感じた。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 取材にあたり、やり取りを繰り返す中で、深町さんは「今回の取材を利用させてもらいたい」とのことだった。取材を通して高次脳機能障害の苦しさをみんなに分かってもらいたいという本音の話ができたことが互いの信頼関係の形成につながったと思う。
- 視聴ターゲットをあまり絞らず、広く一般の視聴者に見てもらうことにより、誰もが当事者になり得ることを前提にして制作にあたった。ドライブレコーダーの映像を多用し、深町さんの感情変化にもたくさんの時間を割いて紹介した。
- 「ヘルプマーク」については番組内の流れで分かっていただけと考え、あえて説明はしなかった。
- 瀧本さんのケースを紹介する時間が短かったというご指摘はその通りだが、30分弱の番組に納めるにはやむを得なかった。ただし、KBC ローカルで放送の1時間番組では、瀧本さんのケースや国の政策、支援体制などの話も盛り込んだ。

などの説明をしました。